

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第9週 2023年2月27日（月）～2023年3月5日（日） 2023年3月9日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第9週の報告数は824人で、前週より221人少なく、定点当たりの報告数は11.94であった。

年齢別では、10～14歳（189人）、6歳（65人）、8歳（65人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（27.00）、長崎市保健所（17.88）、県央保健所（16.00）であった。



（2）感染性胃腸炎

第9週の報告数は165人で、前週より13人多く、定点当たりの報告数は3.84であった。

年齢別では、1歳（30人）、10～14歳（21人）、4歳（17人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（7.83）、県央保健所（6.33）、西彼保健所（5.75）であった。

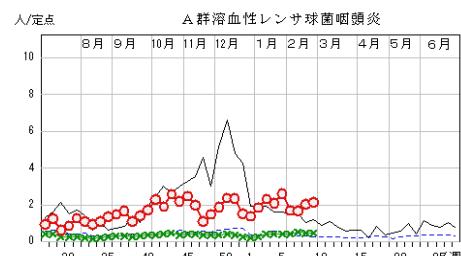


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第9週の報告数は91人で、前週より2人多く、定点当たりの報告数は2.12であった。

年齢別では、10～14歳（23人）、9歳（12人）、5歳（11人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（17.60）であった。



☆トピックス・季節情報

【インフルエンザ】

第9週の報告数は824人で、前週より221人少なく、定点当たりの報告数は11.94でした。地区別にみると、県北地区（27.00）、長崎地区（17.88）、県央地区（16.00）は他の地区より多くなっています。3週続けて減少しましたが、まだ油断は禁物です。今後も予防に努めましょう。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した（13歳未満の場合は2回接種した）2週後から5か月程度までと考えられています。希望される方はワクチンを接種しましょう。

○――○ 当年(長崎県)
×――× 当年(全国)
—— 前年(長崎県)
- - - - - 前年(全国)

【感染性胃腸炎】

第9週の報告数は165人で、前週より13人多く、定点当たりの報告数は3.84でした。地区別にみると佐世保地区（7.83）、県央地区（6.33）、西彼地区（5.75）は他の地区より多くなっています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第9週の報告数は91人で、前週より2人多く、定点当たりの報告数は2.12でした。地区別にみると県南地区（17.60）は、警報レベル開始基準値「8.0」を超えており注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう

2023年第9週の定点当たりの報告数は、「11.94」で前週より減少しました。長崎県は2022年第52週に流行入りしていましたが、第2週の定点当たり報告数が注意報レベル開始基準値の「10.0」を超え、1月19日に、感染症対策室よりインフルエンザ流行の注意報が発表されました。

地区別では、県内10保健所のうち、4保健所で注意報レベルを超えています。県北地区（27.00）は、第6週に警報レベル開始基準値（30.0）を超えて以降減少傾向にありますが、警報終息基準値（10.0）はまだ下回っていません。

今シーズンは、新型コロナウイルス感染症との同時流行にも注意が必要です。手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

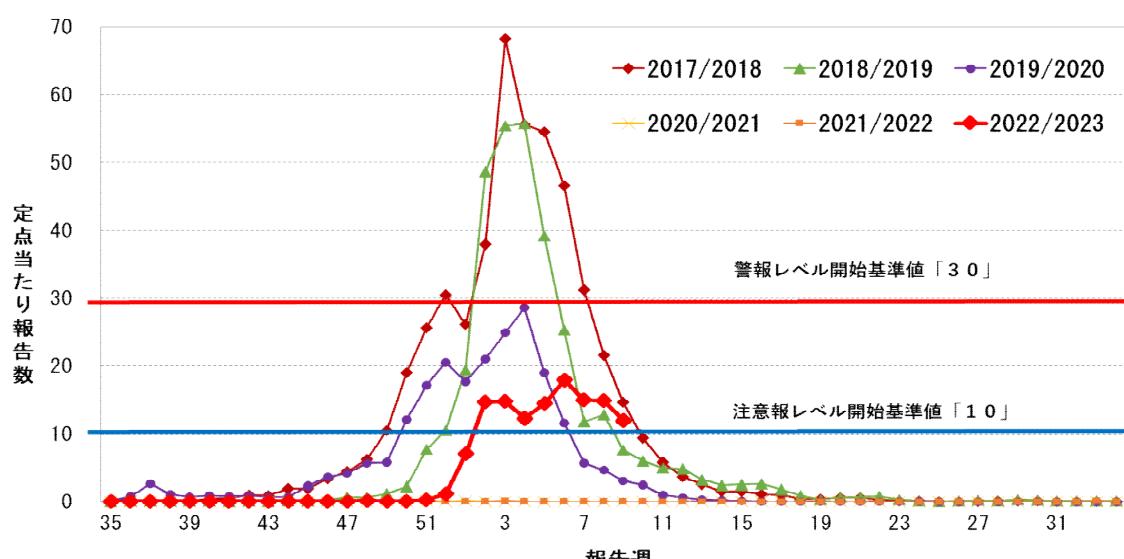
また、インフルエンザワクチンは、発症および重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方はワクチンを接種しましょう。

(参考)厚生労働省 インフルエンザ総合ページ(外部のページに移動します。)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infu influenza/index.html

(参考)感染症対策室：長崎県 インフルエンザ流行の注意報の発表

<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2023/01/1674096992.pdf>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移

☆トピックス：梅毒の報告数が急増しています

梅毒は梅毒トレポネーマの感染によって生じる性感染症で、感染者との粘膜の接触を伴う性行為感染や妊婦の胎盤を通じて胎児に感染する（＝先天梅毒）経路があります。

感染後3～6週間の潜伏期を経て、初期には感染部位の病変（初期硬結、リンパ節腫脹等）、続いて血行性に全身へ移行して皮膚病変（バラ疹や梅毒疹等）や発熱、倦怠感等の多彩な症状を呈するようになります。無治療の場合、感染から数年～数十年経過すると心血管梅毒、神経梅毒に進展します。症状が出ない無症候性梅毒の状態で、永年にわたり気がつかないまま過ごすケースもあります。先天梅毒では、乳幼児期に皮膚病変や全身性リンパ節腫脹等を呈する症例や学童期以後に実質性角膜炎、内耳性難聴、Hutchinson歯などを呈する症例があります。

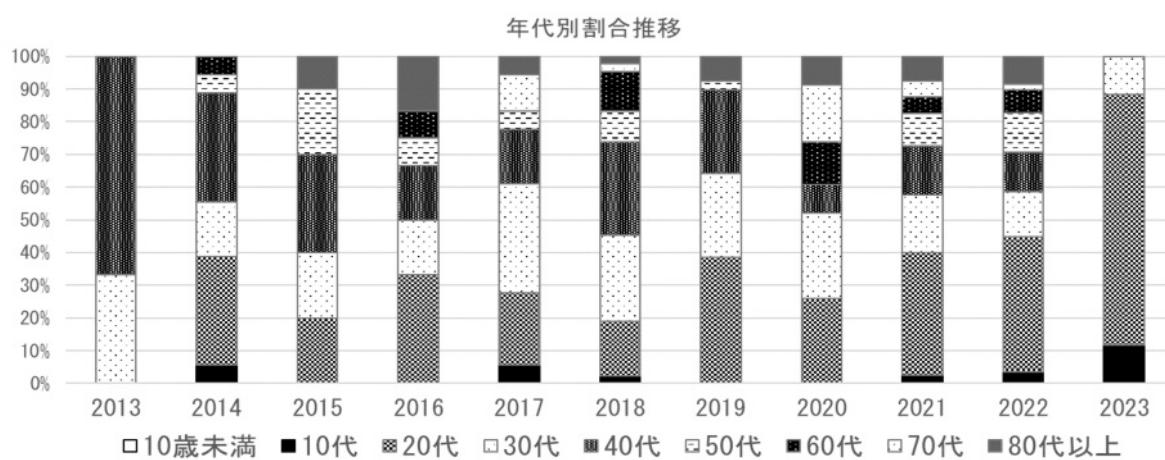
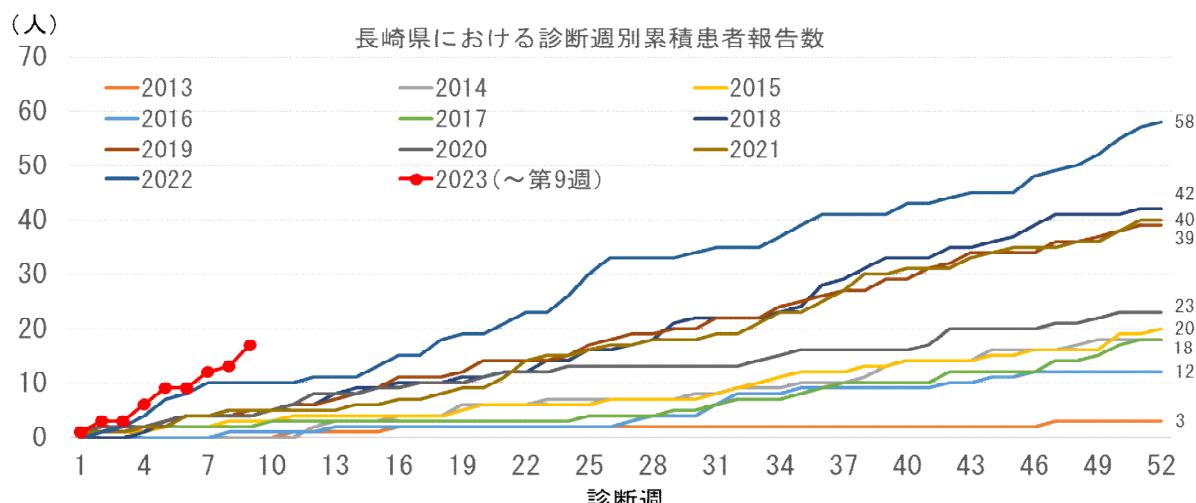
長崎県では2023年第9週までに17名の報告があり、過去10年の中で最速で報告数が増加しています。女性がやや多く、年代別にみると、20代の患者が全体の7割以上を占めています。また、妊娠中の1名の報告もあがっています。

梅毒は早期に診断がされれば治療は比較的容易とされていますが、診断の遅れから神経梅毒などを発症し後遺症が残ることも稀ではありません。早期に治療を始めることが重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合、感染の不安がある場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、県内の保健所では、無料の相談・検査を受けられます（事前の連絡・予約が必要）。

感染を予防するには、コンドームを適切に使用することや感染のリスクとなる不特定多数の人との性的接触を避けることが重要です。

(参考) 国立感染症研究所 梅毒

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/syphilis.html>



◆全数届出の感染症

2類感染症： 結核 患者 男性（80代以上・1名）

3類感染症： 報告なし

4類感染症： 報告なし

5類感染症（全数把握対象）：侵襲性肺炎球菌感染症 患者 女性（80代以上・1名）

梅毒 無症状病原体保有者 男性（20代・1名）

患者 男性（20代・2名） 女性（30代・1名）

※新型コロナウイルス感染症の発生件数については、長崎県ホームページに掲載しています。

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況

(第4~9週、1/23~3/5)

| 疾患名 | 定点当たり患者数 | | | | | |
|-----------------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 4週 | 5週 | 6週 | 7週 | 8週 | 9週 |
| | 1/23~ | 1/30~ | 2/6~ | 2/13~ | 2/20~ | 2/27~ |
| インフルエンザ | 12.26 | 14.47 | 17.86 | 15.07 | 14.93 | 11.94 |
| R Sウイルス感染症 | 0.64 | 0.80 | 0.93 | 1.43 | 0.52 | 0.67 |
| 咽頭結膜熱 | 0.02 | 0.14 | 0.07 | 0.20 | 0.20 | 0.33 |
| A群溶血性レジ球菌咽頭炎 | 2.09 | 2.59 | 1.70 | 1.66 | 2.02 | 2.12 |
| 感染性胃腸炎 | 5.00 | 4.59 | 5.34 | 4.64 | 3.45 | 3.84 |
| 水痘 | 0.05 | 0.07 | 0.07 | 0.16 | 0.05 | 0.09 |
| 手足口病 | 0.34 | 0.39 | 0.39 | 0.09 | 0.05 | |
| 伝染性紅斑（リンゴ病） | | 0.02 | | 0.05 | | |
| 突発性発しん | 0.11 | 0.20 | 0.23 | 0.30 | 0.23 | 0.23 |
| ヘルパンギーナ | 0.11 | 0.11 | 0.16 | 0.16 | 0.07 | |
| 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ） | 0.05 | 0.09 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.12 |
| 急性出血性結膜炎 | 0.13 | 0.25 | | | 0.13 | 0.38 |
| 流行性角結膜炎 | 0.38 | 0.25 | 0.13 | 0.13 | 0.38 | 0.13 |
| 細菌性髄膜炎 | | | | | | 0.08 |
| 無菌性髄膜炎 | | | | | | |
| マイコプラズマ肺炎 | | | 0.08 | | | |
| クラミジア肺炎（カム病は除く） | | | | | | |
| 感染性胃腸炎（ロタウイルス） | | | | | | |

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況

(第9週、2/27~3/5) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル